

アリストテレス

弁論術

戸塚七郎訳



アリストテレス（前
384 - 322）は弁論術
を「どんな場合でも
そのそれぞれについ
て可能な説得の方法
を見つけ出す能力」
と定義，プラトンが
経験による〈慣れ〉

にすぎないとした従来の弁論術も，その成功の原因
を観察し方法化することによって〈技術〉として成
立させ得ると主張する。後世の弁論術，修辞学に大
きな影響を与え



岩波文庫

アリストテレス べん ろん じゅつ 弁 論 術

1992年3月16日 第1刷発行 ©

訳 者 と つか しち ろう 戸 塚 七 郎

発 行 者 安 江 良 介

〒101-02 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5

発 行 所 株式 会社 岩 波 書 店

電話 03-3265-4111(案内)

定価はカバーに表示してあります 印刷・製本 法令印刷

落丁本・乱丁本はお取替いたします

Printed in Japan
ISBN 4-00-336048-6

岩 波 文 庫

33-604-8

アリストテレス

弁 論 術

戸 塚 七 郎 訳



岩 波 書 店

ΑΡΙΣΤΟΤΕΛΟΥΣ
ΡΗΤΟΡΙΚΗ

凡 例

一、本訳は底本として *W. D. Ross: Aristotelis Ars Rhetorica Oxford Classical Texts* を使用したが、写本の読み方と異なる場合には基本的には写本に従うこととし、これを註記した。

一、訳文の上の欄外に掲げた数字はベッカー版の頁数と行数、**a** はその左欄、**b** はその右欄を表わす。なお、同版における『弁論術』の頁数は四桁にわたるので、本文・註などで言及する際には下二桁だけを示した。すなわち 54a-99b は一三〇〇台、00a-20b は一四〇〇台を表わす。

一、訳文のゴシック体見出しは訳者によるものである。

一、訳文中の（ ）内の小活字や数字・英文字は、訳者による意味の補足や註記である。

一、訳文の右に付した*は訳者註のあることを示し、註は本文の後に一括した。

一、『』は書名を表わす。

一、ギリシア語の仮名書きに当たっては、κ, η, ι と κ, ρ, θ の区別はせず、原則として、固有名詞の音引は省いた。

目 次

凡 例

第一 卷

第一章 序 論——従来の弁論術と技術としての弁論術……………	三
--------------------------------	---

弁論術と弁証術／弁論術研究の可能性／従来の弁論術の不備／係争当事者のなすべきこと／立法者と裁判官の仕事／議会弁論は術策の余地がない／説得推論と論理的推論／弁論術の有用性／弁論術の仕事

第二章 弁論術の定義……………	三
-----------------	---

弁論術の定義と領域／二通りの説得／弁論術の説得の三種／弁証術・倫理学との関係／弁証術の証明との類比／例証と説得推論の違い／説得の意味と特徴／弁論術が扱う対象／弁論術の推論の前提／説得推論の前提／ありそうなことと

徴証／例証／説得推論の二種／弁証術と弁論術の論点

第三章 弁論術の種類……………四

弁論術の三種類／弁論が関わる三つの時／弁論の目的／弁論の三つの前提

第四章 議会弁論……………四九

審議の対象／この探究の限界点／審議の五つの主題

第五章 幸福……………五五

幸福がすべての目的／幸福の定義／幸福の部分／血筋のよさ／よい子供に恵まれること／富／名声／名誉／身体の徳／よい老年／友人／好運／徳

第六章 よいもの……………六四

よいものの定義／追加規定と実例／よいことの明白なもの／異論のあるものの評価

第七章 より大なる善・利益……………七三

より大・より小の定義／より大きな善／種類間の大小／継起関係における大
小／第三のものとの比較／二つのものの比較

第八章 国 制…………… 六

国制分類の必要／国制の四種類／各国制の定義／各国制の目的

第九章 演說的弁論…………… 九〇

演說的弁論の目標／美しいものの定義／徳／徳の諸部分（徳目）／徳の徴と成
果／美しい（立派な）もの／類語による称讃／聴衆が称讃する行為であること／
相応しい行為であること／選択による行為であること／称讃と讃辞／称讃と助
言の相互変換／増大誇張／各種弁論に適した方法

第一〇章 法廷弁論…………… 一〇四

不正の考察の三視点／不正の定義／不正を選ぶ動機／不正行為の外的動機／
行為の内的動機／付帯的な原因／1 運による行為／2 自然による行為／3 強
制による行為／4 習慣による行為／5 考量による行為／6 憤りによる行為／
7 欲望による行為

第一章 快 楽……………二三

快樂の定義／本性との一致は快い／習慣は快い／強制されぬものは快い／欲望が向うものは快い／欲望の二種／記憶や期待に基づく快樂／他の快樂

第二章 不正をなす者と蒙る者……………二三

不正が可能な場合／罰を受けないと信ずる場合／発覚しないと信ずる場合／罰は小さいと信ずる場合／不正を加える相手／不正行為の種類

第三章 不正行為の種類……………二三

正・不正の分類／二種類の法による規定／二種類の人による規定／不正は意図的行為／不正には意志が働く／書かれていない正・不正／1 自然の正・不正／2 公正／公正が適用される行為／いかなる行為が公正か

第四章 より大きな不正行為……………三九

品性の不正に基づく場合／被害の大きさによる場合／その他の基準による場合(一)／弁論の効果的方法／その他の基準による場合(二)／書かれていない法に

反する行為

第一章 弁論術に本来属さぬ説得 一四三

この種の説得の数／Ⅰ法／書かれた法を攻撃する場合／書かれた法を弁護する場合／Ⅱ証人／昔の証人／最近の証人／証言／Ⅲ契約／契約が有利な時／契約が不利な時／Ⅳ拷問による自白／Ⅴ宣誓／宣誓を求めない場合／宣誓を拒む場合／宣誓要求を容れる場合／宣誓を求める場合／宣誓が相反する場合

第二卷

第一章 聴き手の心への働きかけ 一五

前巻の要約／弁論の狙い／聴き手の感情／論者が信頼される根拠——人柄／感情

第二章 怒り 一六二

怒りの定義／個人に向けられ、快を伴う／軽蔑の諸相／怒る時の心の状態／怒

りの相手／結び

第三章 穏 和……………一七三

穏和の定義／穏やかに接する相手／穏やかな人の心の状態／結び

第四章 友愛と憎しみ……………一七七

友愛の定義／友愛の相手／友愛の種類／友愛の条件／憎しみの定義／怒りと憎しみの違い／結び

第五章 恐れと大胆さ……………一八五

恐れ of 定義／恐ろしいもの／恐れられる人／恐ろしいもの（続）／いかなる状態の時恐れるか／大胆さの定義／大胆さの対象／いかなる状態の時大胆か

第六章 恥と無恥……………一九三

恥すべきことの定義／恥ずかしく思う相手／恥を感じる場合

第七章 親切と不親切……………二〇一

親切の定義と説明／弁論の進め方／親切のカテゴリー／不親切

第八章 憐れみ……………二〇五

憐れみの定義／どんな状態の時憐れみを抱くか／憐れみを誘うもの／憐れみを誘う人

第九章 義 憤……………二一〇

義憤と憐れみ／義憤と妬み／義憤を覚える対象／義憤を覚える時の状態／結び

第一〇章 妬 み……………二一六

妬みの定義／妬みを抱く時の状態／妬みの対象となるもの／妬みの対象となる人／結び

第十一章 競争心……………二二〇

定義・競争心を持つ時の状態／競争心を持つ対象／競争心を燃やす相手／感情全体の結び

第一二章 年齢による性格(一)——青年	………	二三
---------------------	-----	----

考察のテーマ／青年

第一三章 年齢による性格(二)——老年	………	三七
---------------------	-----	----

青年との比較

第一四章 年齢による性格(三)——壮年	………	三三
---------------------	-----	----

壮年は中間的性格／壮年の時期

第一五章 運による性格(一)——家柄のよさ	………	三三
-----------------------	-----	----

家柄のよさによる性格／血統の正しさとの違い

第一六章 運による性格(二)——富	………	三四
-------------------	-----	----

金持の性格／成金と古くからの金持／金持の不正

第一七章 運による性格(三)——権力と好運	………	三六
-----------------------	-----	----

権力／好運

第一八章 共通の論点 二三七

これまでの要約／三種の弁論に共通な論点

第一九章 共通の論点——各論 二四〇

可能と不可能／過去と未来／大と小

第二〇章 共通の説得手段——例証 二四六

二つの共通な説得手段／例証の二種／歴史的事実による例証／創られた例証
—— 比喩／創られた例証—— 寓話／寓話と歴史的事実の比較／例証を用いる場
合

第二一章 共通の説得手段——格言 二五二

格言の定義／格言の分類／補足をする場合／格言を用いる場合／定着している
格言に反対の場合／格言の効用／結び

第二章 共通の説得手段——説得推論……………二五九

定義の確認／問題特有の論点を知る必要／説得推論の要素(論点)／結びと次の
考察

第三章 説得推論の論点……………二六五

有効な説得推論

第四章 見せかけの説得推論……………二八六

第五章 説得推論の反駁……………二九五

反駁の二方法／四種類の異論／四種類の反駁

第六章 説得推論の注意事項……………三〇〇

誇張と過小評価は論点でない／反駁のための説得推論／異論は説得推論でない／一・二巻のまとめ

第三卷

第一章 第三卷の主題	三〇四
------------	-----

弁論の三つの部分／表現方法の考察／演技的要素——声／演技に関する術は未組織／表現方法の歴史

第二章 表現の優秀性	三〇九
------------	-----

1 明瞭さ／2 適切さ／3 聞きなれない表現／詩的表現の注意／新造語と日常語／同音異義語と同義語／比喻／比喻の適切さ／比喻の不適切さ／修飾語／縮小詞

第三章 生彩のない表現	三七
-------------	----

1 合成語／2 聞きなれぬ語／3 修飾語／4 比喻

第四章 譬 え	三三
---------	----